



# 済生会富山病院報



このひと時 (裏磐梯)

臨床検査科 山本富夫

## 目次



理念・基本方針 .....	2	済生会創立100周年記念式典 .....	8
富山県地域生活定着支援センター開所式 .....	3	熱気に満ちた「脳卒中合宿セミナー」 ..	8
第38回日本脳神経看護研究学会を 富山県で初めて開催 .....	4	高原兄さん院内ミニコンサート開催 ..	9
市民公開講座「あなたの大切な人を脳卒中 から守るために」：開催報告 .....	5	第1回夏祭り .....	9
「患者さん満足度調査」結果について .....	6~7	認定看護師合格の声 .....	10
		私達の職場 .....	11
		新人自己紹介 .....	12



社会福祉法人 富山県済生会 富山県済生会 富山県済生会富山病院

## 理念 患者さん本位の心温まるすぐれた医療の提供

### 基本方針

1. 地域中核病院として、地域に密着した信頼される患者さん本位の医療の提供に努めます。
2. 済生会精神に基づく保健・医療・福祉の総合的なサービスを目指します。
3. 医療水準の向上に努め、良質で安全な医療を提供します。
4. 患者さんの権利を尊重し、心温まる医療の提供に努めます。
5. 効率的で安定した経営基盤の確立に努めます。

### 患者さんの権利宣言

本院では“患者さん本位の心温まるすぐれた医療の提供”を基本理念に、患者の皆さんと協同して最良の医療を提供できるよう以下の権利を尊重します。

#### 1 個人としてその人格を尊重される権利

患者さんはひとりの人間として、その人格・価値観などが尊重される権利があります。

#### 2 質の高い医療を公平に受ける権利

患者さんは、適切で質の高い医療を、公平に継続して受ける権利があります。

#### 3 十分な情報を知り、説明を受ける権利

患者さんはご自身が受けている医療について知る権利や診療情報の開示を求める権利があります。また、その内容や危険性、他の方法の有無と長所・短所などについて、患者さんが分かる言葉で、十分に理解できるまで説明(インフォームドコンセント)を受ける権利があります。

#### 4 選択の自由と自己決定する権利

患者さんは、病院や医師を自由に選択し変更する権利と他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。また、分かりやすい説明を受け十分納得された上で、ご自身が検査や医療を選択する権利、あるいは拒否する権利があります。

#### 5 プライバシーが守られる権利

患者さんは、ご自身に関する個人の情報やプライバシーが守られる権利があります。



患者さんには、私たちが良質で安全かつ効率的な医療の提供を実践するために、次のことをお願いします。

- ・ご自身の自覚症状、病歴や服薬歴などをできるだけ正確に伝えて下さい。
- ・診療、療養中におけるご自身の希望を遠慮せずに伝えて下さい。
- ・他の患者さんの診療や職員の業務に支障をきたすことがある場合には、ご協力をお願いすることがあります。



# 富山県地域生活定着支援センター開所式

富山県地域生活定着支援センター センター長 南沢 宏

富山県が設置する、「地域生活定着支援センター」の運営を富山県済生会支部が9月1日より受託し、10月3日、富山病院において開所式が挙行されました。

当日は、富山県知事（代理 小林明夫厚生部次長）、利波支部業務担当理事が開所挨拶を、来賓として川原富山刑務所長、富山富山保護観察所長が来賓挨拶をされました。

挨拶の中で利波支部業務担当理事は、これまで県民のニーズに応えるべく職員一丸となって、富山病院、高岡病院、なでしこ保育園の事業に取り組んできたが、新たなセンター事業を県や市町村、関係機関等との連携の中で、スムーズに運営されるよう努めていくとの決意を述べられました。

富山県地域生活定着支援センター開所式



富山県厚生部次長小林明夫氏、当院病院長三崎拓郎先生による看板上掲の様様

当センターは、自立生活を営むことが困難な高齢または障害を抱えた矯正施設入所者が、矯正施設退所後、直ちに福祉サービス等が受けることができ、地域の中で自立した社会生活が送れるよう支援することを目的としています。

済生会としては、大分県日田病院、福井県病院に次いで3番目の受託となります。

当事業を受託した背景は、富山県済生会として、無料低額診療事業とともに、生活困窮者支援事業「なでしこプラン」を積極的に実践し、地域に貢献したいとの使命感からです。

済生会が、次の100年を踏み出そうとするこの年に、この新たな事業を開始できることを喜びに感じて、頑張っていきたいと思えます。



# 第38回日本脳神経看護研究学会を富山県で初めて開催

第38回日本脳神経看護研究学会 会長  
看護部長 山崎 列子

平成22年7月に事務局を当院に置き、「北陸地区脳神経リハビリテーション看護研究会」を、北陸3県(富山県・石川県・福井県)で発足しました。その第1回目の研究会に日本脳神経看護研究学会理事長の石山光枝先生をお招きしてご講演頂いたことがご縁で、「第38回日本脳神経看護研究学会」を富山県で(富山国際会議場)初めて開催する運びとなり、その大会長を務めさせていただく機会に恵まれました。

特別講演は、富山大学の遠藤俊朗学長に「富山県における脳卒中医療集約化の取り組み-ニューロ・ナースへ送るエールと期待-」と題して、参加者に多くのエールをいただきました。



山崎大会長(前列中央)とスタッフ一同

ランチョンセミナーでは、山中温泉医療センターの大村健二センター長に「摂食嚥下機能評価とリハビリテーション-経口摂取の重要性-」と題して、摂食嚥下の機能回復訓練で人は尊厳を取り戻すことができると話され、とても興味深いものがありました。

また、シンポジウムを二つ企画し、一つは「脳卒中リハビリテーション認定看護師の現状と未来」と題して、現在ご活躍中の認定看護師に、実践と未来展望について、活発な討議を繰り広げていただきました。もう一つのシンポジウムは「看護とリハビリの協働」としました。チーム医療を推進していく上で、他職種と知識・技術を共有しお互いを高めあっていくことは極めて重要です。そこで今回、新しい企画としてリハビリ部門の皆様にもご参加いただき、率直な意見交換の場となりました。

学会終了後に紙屋克子教授から、「病院を挙げてのバックアップ体制に、日頃の看護部の皆様の組織における位置づけと、評価・信頼を垣間見ることができました」とのお言葉をいただき、大変うれしく思いました。そして改めて、当院のチームワークの良さを実感いたしました。

この学会開催の刺激を受けて、今後ますますスタッフが、脳神経看護の新たな「めざめ」に向かって「脳へ働きかけリハビリテーション看護」の実践に繋げていけるように取り組んでいきたいと思えます。

本学会が、実り多い有意義な学会になりましたことに、深く感謝申し上げます。



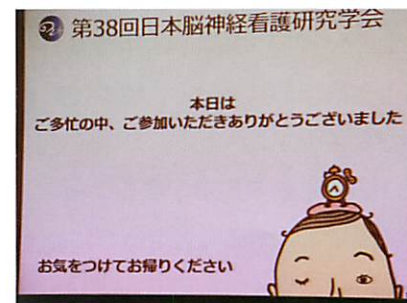
会場となった富山国際会議場

参加者受付の様子

第37回までの学会は主に大学病院で開催され、単独の当院が担当するというのも初めてで、企画を進めていく上で、すべてに不安な気持ちでいっぱいでした。ところが当日、全国47都道府県から654名という予想以上の参加者があり、これまでの学会の参加者記録を更新することができました。ご協力ご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。特に当院脳卒中センター部長の久保道也先生から学会開催のノウハウを教わり、大変心強く大船に乗った気持ちで頑張ることができました。

今回の学会のメインテーマを「めざめ-脳へ働きかけリハビリテーション看護-」とし、めざめには二つの意味を込めました。一つは脳卒中や頭部外傷などから生じる脳神経障害からのめざめ、そしてもう一つは、その重責を担う看護師自身の意識に働きかけるという意味を込めました。看護研究は58題もの応募があり査読の結果、採択の可否をつけがたく、すべての演題発表(口演・示説)をしていただくことにしました。

教育講演は、静岡県立大大学院の紙屋克子教授に「脳神経看護の未来-意識障害看護の経験から-」と題して講演いただきました。紙屋教授は、寝たきりでも高度な集中看護によって意識を回復した実践から、「変化を起こす看護」が必要と話されました。



最後にめざめちゃんが片目を開けてくれました

# 市民公開講座「あなたの大切な人を脳卒中から守るために」：開催報告

脳卒中センター部長 久保 道也 副看護部長 放生 ひとみ

10月2日、国際会議場のメインホールは430名の一般市民の皆さんで埋まりました。そこで開催されたのは、当院主催の市民公開講座「あなたの大切な人を脳卒中から守るために」です。

欧米の2倍以上で国民病とまで言われたわが国における脳卒中の死亡率は、昭和40年(1965年)をピークに低下を始めました。現在では、悪性新生物・心疾患に次いで疾患別死亡率(人口10万人あたりにその病気によって死亡する人の数)の第3位です。でも、誤解しないで下さい。このことは、決して脳卒中が大きく減ってきたという意味ではありません。実は、優れた降圧剤(血圧を下げる薬)の開発や減塩指導の普及、そして様々な高度な治療法の進歩によって、脳卒中が「命を落とす病気」から「命を落とさないまでも障害を残して介護が必要になる病気」に変貌を遂げてきただけで、脳卒中そのものは決して減っていません。

残念ながら、富山県における脳卒中発症率は全国平均をかなり上回っています。われわれ済生会富山病院は2007年4月から365日24時間体制で脳卒中救急の受け入れを開始し、県の脳卒中拠点病院として位置づけられています。また4年連続で北陸3県で最も多くの急性期脳卒中患者の治療を行っている病院となりました。

今回の市民公開講座で一般市民の皆さんにお伝えしたかったのは、(1)脳卒中の予防と早期発見・早期治療の大切さ、(2)脳卒中になってしまった大切な家族に、あなた自身は何をしてあげられるか、それをどうやったらよいか、の2点です。

講師の先生は、桑山直也先生(富山大学医学部脳神経外科・診療教授)、齋藤泉先生(愛知県看護協会・認定看護師教育課程・主任教員)のお二人にお願いしました。

桑山先生は、富山医療圏における脳卒中の特徴は、高血圧症を背景として起こる脳出血が全国平均に比べて多いこと、また脳の血管が詰まる脳梗塞のタイプの中でも高血圧症を背景として起こるラクナ梗塞が多いことを、当院のデータをもとに強調されました。その背景としては、塩分摂取量に関して、富山県

の女性は全国平均を下回る優等生である一方、富山県の男性は50歳代～60歳代において特に塩分摂取量は全国平均をかなり上回っていることがどうも関係しているようです。

また、早期発見・早期治療の観点から、世界中で展開されているACT F.A.S.T.についてご紹介いただきました。脳卒中を疑う人を見たら3つのテストを行うことが勧められています。そのテストとは、「顔(口や顔の片方がゆがんでいないか)」「腕(両腕を上げると片方の腕が下がらないか)」「言葉(話せなくなったり、呂律が回らなくなったり、言葉を理解しなかったり等の症状がみられないか)」です。F(face:顔)、A(arm:腕)、S(speech:言葉)、T(time:時間)...したがって、「顔・腕・言葉ですぐ119番! 専門病院へ!」というメッセージです。

齋藤先生からは、大切な家族が脳卒中になってしまった場合に、家庭で何かしてあげたいけど何をしたらよいか分からない、といった声に答えていただきました。最も大変な排泄から始まって、車いすからベッドへの移動、食事の際の注意事項など、きわめて実践的な内容ばかりでした。講演が終わった後も、ステージの上に集まった20名あまりの市民の皆さんが、齋藤先生から本物のベッドと車いすを使って、クリアファイルを用いた移乗の指導を受けていました。

また、この市民公開講座と平行して、講演会場のすぐ外で当院のスタッフによる「看護とリハビリフェア」が行われました。血管年齢を調べたり、嚥下用食品を実際に試飲したり、リハビリテーションの装具・器具の相談コーナーを設けたりして、大好評でした。血管年齢コーナーには長蛇の列ができてしまいました。

市民の皆さんが、いかに健康への関心度が高く、いかに脳卒中は御免被りたいという気持ち強いのか、そしていかにわれわれにその期待を寄せていただいているかを、実感することができました。



# 「患者さん満足度調査」結果について

医療向上推進委員会 外来看護師長 谷川 静子

当院では医療サービスの向上を目指して、定期的に「患者さん満足度調査」をおこなっています。本年は2月から4月にかけて外来と入院に分けて実施いたしました。

外来部門は、平成23年2月16日から2月18日の3日間、外来を受診されました患者さん694人の方から有効回答をいただきました。また入院部門は、平成23年2月から4月の3か月の間に、退院される患者さん253人の方から有効回答をいただきました。

その結果をまとめましたのでここに報告いたします。ご協力ありがとうございました。

## 当院の選択理由

はじめに当院の選択理由をお聞きしました。

外来部門(表1)では「家や通勤先などから近いから」が47.7%と最も多い結果になりました。当院は地域の方々に多くご利用を頂いているのがわかります。「良い医師がいるから」「医療施設や設備が良いから」と医療そのものについての評価と、「言葉使いや態度などの対応が良いから」という接遇面についての評価では昨年より、良い結果をいただきました。

入院部門(表2)では「良い医師がいるから」次いで「医療施設や設備が良いから」となっています。また富山医療圏における救急輪番体制や脳卒中センターにおける24時間救急の受け入れにより、「救急受け入れでも」27.3%と多くなっています。

また、地域連携を勧めている結果として「他の医療機関からの紹介で」入院された方が多いのが、外来部門での結果との大きな違いでした。

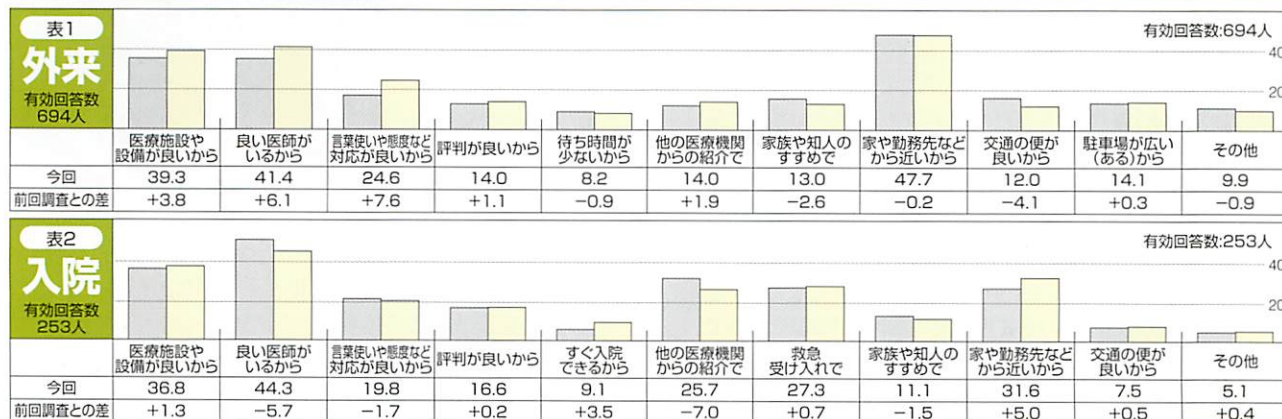
## 当院の選択理由

単位 % (複数回答)

凡例

前回

今回



## 患者さん満足度調査の結果(外来部門)

右記の表に示す各項目についてアンケートによる評価を頂きました。

施設面におきましては、昨年第三者機関における病院機能評価を受け、その際に院内の設備等の改善をおこなっております。そのせいか今回の結果では、設備等には大きな不満はみられませんでした。「交通の利便さ」や「駐車場の広さや入りやすさ」に『やや不満』『不満』がやや多くみられました。患者さんの集中する曜日や時間があり、駐車場を探すのに手間をおかけしているのが原因と思われる。申し訳ございません。

また診療サービス面におきまして「診察の待ち時間」に『やや不満』『不満』が多くみられました。患者さんの自由記載の中には「予約なのに待たされる」「予約に意味がない」などの多くの予約における問題点のご指摘を受けました。現状を把握するために待ち時間調査も定期的におこなっており、外来の待ち時間の短縮に向けて検討を続けております。

接遇面ではおおむね良い評価をいただいているのですが、今後も職員一同さらに努力していくつもりです。

## 患者さん満足度調査結果(入院部門)

右記の表に示す各項目についてアンケートによる評価をいただきました。

『やや不満』が多く見られたのは「食事内容」についてでした。栄養科ではアンケート調査などによって患者さんからのご意見をお聞きして、満足頂ける食事の提供が出来るよう努力しておりますが、今後もさらに改善に取り組んでいきたいと思っております。

入院部門のアンケート結果は全体的には良い評価をいただきました。自由意見の記載の中では「看護師のナースセンターでの声」「椅子の音」「同室者のテレビの音」などが指摘され、現在改善に向けて検討を行っています。また自由記載では多くの感謝の言葉もいただき、今後の励みになりました。本当にありがとうございます。

**外来部門**

調査期間 平成23年2月16日(水)~2月18日(金) 回答者数 762人

凡例 非常に満足 満足 どちらともいえない やや不満 不満 (%)

\*インデックスは、非常に満足(100点)、満足(75点)、どちらともいえない(50点)、やや不満(25点)、不満(0点)の合計点

項目	非常に満足	満足	どちらともいえない	やや不満	不満	インデックス(100点満点)
<b>施設面</b>						
①交通の便利さ	16.1	49.3	24.4	6.7	3.6	66.9
②駐車場の広さや入りやすさ	15.4	55.1	18.6	8.8	2.2	68.2
③建物の外観やつくり	19.0	62.4	18.3	0.3	0.0	75.0
④総合待合室の設備や雰囲気	15.5	65.5	17.5	1.4	0.1	73.7
⑤各科の待合室の設備や雰囲気	12.9	63.0	20.6	3.2	0.3	71.2
⑥トイレや洗面所設備	17.2	61.3	16.4	4.6	0.6	72.5
⑦売店、食堂、自動販売機	11.6	51.7	30.7	5.7	0.3	67.1
⑧案内看板や表示のわかりやすさ	13.7	59.5	24.2	2.4	0.1	71.1
⑨清潔感	22.2	64.7	11.9	1.3	0.0	76.9
●施設面全般について	15.2	67.6	16.8	0.3	0.1	74.4
<b>接遇面</b>						
①総合案内や会計の対応	22.1	60.7	15.4	1.7	0.1	75.8
②各科診療受け付けの対応	25.4	62.0	10.7	1.2	0.7	77.5
③看護師の言葉使いや態度	29.4	61.2	8.2	0.3	0.4	79.6
④医師の言葉使いや態度	31.0	58.8	9.1	0.8	0.3	79.9
⑤検査・放射線技師の言葉使いや態度	25.8	60.3	13.3	0.4	0.1	77.8
⑥プライバシーへの配慮	18.8	55.3	23.7	1.9	0.3	72.6
●接遇面全般について	20.3	61.8	17.1	0.7	0.1	75.3
<b>診察サービス面</b>						
①診察待ち時間	6.9	30.2	35.6	20.0	7.2	52.4
②診察時間	12.5	49.0	31.8	4.9	1.8	66.4
③診察後の支払いまでの待ち時間	9.3	49.9	32.7	6.9	1.3	64.8
④看護師の説明のわかりやすさ	19.3	62.9	16.3	1.1	0.4	74.9
⑤医師の病状や検査結果の説明	24.2	60.8	12.8	1.7	0.6	76.6
⑥医師への質問や相談のしやすさ	23.5	57.1	17.1	1.1	1.3	75.1
●診察科でのサービス全般について	15.4	62.0	20.8	1.3	0.6	72.6

**入院部門**

調査期間 平成23年2月14日(月)~4月28日(木)の間にアンケート票を配布。 回答者数 274人

凡例 非常に満足 満足 どちらともいえない やや不満 不満 (%)

\*インデックスは、非常に満足(100点)、満足(75点)、どちらともいえない(50点)、やや不満(25点)、不満(0点)の合計点

項目	非常に満足	満足	どちらともいえない	やや不満	不満	インデックス(100点満点)
<b>院内施設面</b>						
①建物の外観やつくり	21.4	67.7	10.2	0.8	0.0	77.4
②医療機器等の設備	27.8	61.1	9.1	2.0	0.0	78.7
③トイレ、洗面、給湯等の設備	25.9	61.7	7.9	3.4	1.1	77.0
④売店、食堂、自動販売機	17.4	55.8	22.3	4.5	0.0	71.5
⑤整理整頓や清掃状態	25.8	65.2	8.2	0.7	0.0	79.0
●院内施設面全般について	17.2	70.2	11.5	0.8	0.4	75.8
<b>病室環境面</b>						
①病室の居心地(清潔さ・広さなど)	26.9	61.3	9.2	1.8	0.7	78.0
②ベッド、寝具、ベッド周り設備	22.3	63.2	10.4	3.7	0.4	75.8
③冷暖房や照明	17.7	63.9	13.9	4.5	0.0	73.7
④食事の内容	12.2	50.4	24.8	11.5	1.1	65.3
⑤食事時間や起床・消灯時間	12.5	66.3	18.9	2.3	0.0	72.3
●病室環境面全般について	15.3	69.7	13.4	1.1	0.4	74.6
<b>接遇面</b>						
①事務職員の言葉使いや態度	35.0	54.5	10.5	0.0	0.0	81.1
②看護師の言葉使いや態度	43.5	50.9	5.6	0.0	0.0	84.5
③医師の言葉使いや態度	44.1	52.6	2.9	0.0	0.4	85.1
④検査・放射線技師の言葉使いや態度	37.3	56.1	6.3	0.0	0.4	82.5
⑤プライバシーへの配慮	24.9	60.4	14.0	0.8	0.0	77.4
●接遇面全般について	28.3	61.5	9.8	0.4	0.0	79.4
<b>診療面</b>						
①看護師の説明のわかりやすさ	31.0	62.4	5.5	0.7	0.4	80.7
②看護師の採血や介助の手際よさ	32.5	58.6	7.8	0.7	0.4	80.5
③医師への質問や相談のしやすさ	36.5	54.1	8.3	1.1	0.0	81.5
④医師の病状や検査結果の説明	40.4	50.0	8.9	0.7	0.0	82.5
⑤医師の病状に対する処置の適切さ	37.4	54.0	7.5	0.8	0.4	81.8
●診療サービス面全般について	27.2	63.4	8.7	0.8	0.0	79.2

**おわりに**

当院では今後も引き続きこのような調査を行い医療サービスの向上に努めたいと考えております。また院内数カ所に常時「ご意見箱」を設置し、みなさまからの声を聞かせていただいております。是非ここでも率直なご意見をいただきまして、本調査とあわせて改善のための貴重な糧とさせていただきます。今後ともご協力、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

# 済生会創立100周年記念式典

事務部次長 南沢 宏

平成23年5月30日、天皇皇后両陛下ご臨席の下、済生会創立100周年記念式典が東京都代々木の明治神宮会館で行われました。

常陸宮同妃両殿下、済生会総裁の寛仁親王殿下もご臨席され、来賓の内閣総理大臣、衆参両院議長、厚生労働大臣、東京都知事(代理)のほか、各支部・施設からの役職員など約1,100人が出席しました。

午前11時過ぎから始まった式典では、国歌斉唱に続き、豊田章一郎会長が「済生会役職員一同は、創立の精神を再認識し、力を結集して医療・福祉の増進に寄与していくことをお誓い申し上げます」と式辞。済生会に多大に貢献のあった個人の代表者に感謝状、長年にわた



り功績のあった役職員420人の代表者に表彰状が寛仁親王殿下から手渡されました。その後、内閣総理大臣らから祝辞



をいただき、続いて天皇陛下から「済生会の活動が人々の幸せに一層資するようになることを願う」とのおことばを賜りました。最後に寛仁親王殿下が、両陛下にご臨席、おことばを賜ったことに対し、総裁としてお礼の奉答を述べられました。1つの式典に天皇皇后両陛下はじめ3皇族殿下がご臨席されるのは極めてまれなことだそうです。富山県支部からも勤続35年以上の職員ら19名が出席し、厳かな雰囲気の中で100年という歴史と使命への重みとをかみしめた1日となりました。

# 熱気に満ちた「脳卒中合宿セミナー」

脳卒中センター部長 久保道也 看護師 島尻真生 関口梨沙

7月16日～17日にかけて当院の研修ホールは、県内外から集まった160名の医療従事者ならびに救急隊員・医学生らの熱気に包まれました。「脳卒中合宿セミナー」は、脳卒中医療に関わる多職種のメンバーがそれぞれの専門的な視点に立った知識・技術や考え方を学び合っ、情報共有と相互理解を深め、交流することを目的として2008年から始まった当院主催のセミナーで、今年で第4回目を迎えることができました。これまでの3回はいずれも脳卒中の病態と管理を中心に進めてきたのですが、今回のテーマは「トータルケアの視点に立った脳卒中医療」として、より広い視野から脳卒中について一緒に考えてみようという企画です。「トータル」には2つの意味があり、



多職種によるチーム医療を示す横軸の「トータル」と、急性期から回復期そして在宅にいたるまでの継ぎ目のない医療連



携を示す縦軸の「トータル」を表しています。これらのテーマに関して、様々なレクチャーや実技指導が週末の1日半を使って行われました。

今回の特別講演には、石原正一郎先生(埼玉医科大学国際医療センター 脳神経外科教授)と、熊井利将先生(瀬藤病院三年坂ゆうゆう・おむつフitter1級)の2名の講師の先生をお招きいたしました。石原先生は国内有数の最新設備を有する施設でたくさんの脳血管内手術を行う一方で、患者さん一人一人との直接の関わりを非常に大切に、若手の医師の教育にも大変力を入れていらっしゃる様子がとてもよく伝わってきました。一方、熊井先生のおむつに関する実践的指導は、聴衆の多くにとってまさに目から鱗が落ちるような内容でした。お二人の共通点は、なんといっても「情熱」のひと言に尽きると思います。

来年も脳卒中に関するアップデートな情報満載の第5回の「脳卒中合宿セミナー」を開催したいと思います。



# 高原兄さん院内ミニコンサート開催

放射線技術科主任 石崎宗一郎

『患者さんと共に楽しい時間を過ごす』事を目的に、季節ごとの開催をしている当院の音楽会。12年前から始め、この7月に第30回を数えました。記念ミニコンサートとして“高原兄さん”をお招きし、1階の広いエントランスホールに入りきらないくらいの観客の皆さんで盛り上がりました。富山県民の皆さんは耳なじみのあるCM曲『リンリン富山競輪』でコンサートがスタート。患者さんからも軽快な音楽と歌声にリズムをとる手拍子と拍手が起こり、会場は熱気に包まれました。高原さんご自身は『まさか病院で完全無欠のロックンローラーや羞恥心を歌うとは思わなんだわ』と、途中富山弁を織り交ぜた楽し



いお話で会場の皆さんも笑顔に。途中患者さんを気遣いながら、皆さん早くお元気になってくださいと、オリジナル曲の『心が今日も笑顔』を会場の皆さんの握手にこたえながら歌い上げていただきました。会の始めには、新人看護師のコーラスも大七夕のもとで披露され、患者さん達と一緒に『ふるさと』などを歌いました。



のコーラスも大七夕のもとで披露され、患者さん達と一緒に『ふるさと』などを歌いました。

## 第1回夏祭り

リハビリテーション科主任 山本晃彦

第1回夏祭りをお盆前の8月12日に開催しました。現在リハビリテーション科（以下リハ科）では『患者さん・家族とスタッフが交流し、楽しい時間を過ごす』『リハビリの一環として入院患者さんの活動の場の提供』を目的として、集団訓練を行っています。その中で、もっとより多くの人に参加することが出来ないものかと思い、入院患者さんだけでなく、一緒に病気と闘っている家族にも呼びかけて、『祭り』のような雰囲気の催しを企画しました。この企画に対し、リハ科だけではなく、看護部の協力を得て、初めてのことでしたが、病院全体で開催することができました。内容は夏祭りとして、スタッフは浴衣や法被を着て、屋台のイメージで各ゲームブース（輪投げ・団扇作り・的当て・ヨーヨー釣り・ビンゴ）を設置し、盆踊り等を考えました。どのような反応が来るのか正直不安でしたが、当日は100名近くの参加があり



ました。予想以上の反響があり、輪投げでは順番待ちの列になる状態でした。また団扇作りでは色々な模

様を付けたり、描いたりして自分だけの団扇を作っていました。的当ては、缶を的に見立てて倒すゲームでした。お孫さんが入院しているおじいちゃんを連れて来て、的を全部倒した時のふたりの笑顔が印象的でした。ヨーヨー釣りでは、なかなか釣れない場面もありましたが、リハビリということで車椅子に座りながら手をいっぱい伸ばして釣っていました。5つ以上のゲームブースを設置したことで、色々な所で歓声があがり、盛り上がっていました。楽しみながら自分でゲームを行うことにより、普段リハビリや病棟では見られない、患者さんの楽しそうな様子を見ることができ、この企画をして良かったと思いました。最後は盆踊り（風の盆）を全員で行い、夏祭り全開の状態での終わりました。2時間程の夏祭りでしたが、アンケートの9割以上の『楽しかった』という回答や、多数の「またやって下さい」のご意見に今後も応えていきたいと思



います。ありがとうございました。

# 認定看護師合格の声



副看護師長  
脳卒中リハビリテーション  
看護認定看護師  
菅野 陽子

## 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師に合格して

私は、大阪府看護協会の教育課程で6カ月の研修を終え、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 (SR-CN) になりました。当院は、脳卒中センター・stroke care unit (SCU) を開設し、24時間365日、脳卒中の患者さんを受け入れています。脳卒中とは、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血のことをいいます。毎日たくさんの患者さんと出会う中、脳卒中の専門的な看護を学ぶ必要性を感じて認定看護師になりたいと思いました。

私の役割は、安全に早期リハビリテーションが行えるように、医師やリハビリスタッフと連携を取りながら、専門的な看護の提供を行っていくことです。安全で早期から始めるリハビリテーションは、患者さんの回復を助け、介護する方の負担を軽くすることができます。

「夫は脳出血になったけど、いままでの夫に感謝しながら看病をして、回復していく夫と共に楽しい入院生活でした」と言って退院された家族の言葉がとても心に残っています。

脳卒中を患っても、その人らしい新たな生活を取り戻す支援ができるように日々、頑張っていきますのでよろしくお願ひします。



主任看護師  
糖尿病看護認定看護師  
安藤百合江

## 『その人らしく』を支援したい

私が糖尿病看護認定看護師を目指したきっかけは、インスリン注射の自己中断で足潰瘍を発症、入院になった患者さん (Aさん) との関わりでした。Aさんは入院時とても険しい表情で「注射より生活をしてかんなんかった」と言われました。

フットケアをきっかけにAさんは、疎遠になっている家族への思い、インスリン注射中断への不安があったことを話してくれるようになりました。私はAさんの話を傾聴し「患者さんは責められない、その時々を懸命に生きている」と気づきました。それからはAさんの方から「退院したら何食べたらいいんや?」と前向きな質問がくるようになりました。そして生活調整、疎遠だった家族と連絡を取り退院されました。

その後、Aさんと再会する機会があり「子供と連絡してくれてありがとう…今は注射も毎日しとるよ」と柔らかい表情で話されていたのが印象的でした。

糖尿病の治療は、患者さんの生活に深く密着しており、価値観や生活習慣が大きく影響します。私は糖尿病を持ちながら生きていく患者さんの生活や様々な思いを捉え、病気の発症や悪化を防ぐとともに、その人らしい生活が継続できるよう療養生活を支援して行きたいと思います。

入院中の患者さんの中には糖尿病の方はたくさんいらっしゃいます。認定看護師の役割である横断的活動を行い、病院内の糖尿病患者さんに対して関わっていきたくて考えています。また、入院中のみではなく退院後の外来通院時に継続した看護介入を行って行きたいと思っています。



## 私達の 職場

## 歯科外来

歯科部長 河合宏一

まず、他病院の歯科口腔外科との違いについてですが、病院「歯科口腔外科」は通常、口腔外科手術を主にを行い一般的なムシバ治療や歯周病の予防や歯の修復・義歯は行わないことになっています。そのようにして一般歯科開業医の先生と分業化・すみ分けをしています。そんな表示を見かけた方もいるでしょう。当科は、設立時にそのような流れになかった時代の設立なので標榜は「歯科」となっており一般歯科治療をほとんど保険治療で行っています。一方、がんのような口腔外科手術は行わず、大学病院に紹介しています。

また、病院歯科口腔外科の特徴として親知らずの（開業医からの）依頼抜歯を行うのが普通ですが、当科では親知らずの保存療法に力を入れています。親知らずだから抜くという考え方には賛成できません。親知らずでも清掃しやすい形態に治し、保存的に取り組んで、32本の歯で生涯過ごせたら理想的です。

ムシバ治療もできるだけ患部だけ愛護的に取り除き、健康部を削らないように心掛けています。例えば、一本欠損があっても、両隣接歯が健康な場合は、

従来のように健全歯を丸ごと削って銀のかぶせを入れないよう患者さんと話し、そのように心掛けています。

しかし、病院歯科の一番の仕事は、入院患者さんの歯の治療、口腔ケアによる口内の健康と肺炎防止、そして咀嚼と嚥下のための口腔リハビリだと考えています。義歯による口腔再建は咀嚼で大切ですが嚥下にも関係します。

口だけでなく、体全体を健康に導く「病院オーケストラのパート楽器」として日々診療に取り組んでおります。



## 私達の 職場

## 情報管理室

主事 嶋 邦秀

情報管理室は、平成21年4月1日に情報の総合管理を目的として設置されました。現在二谷部長（放射線科部長兼務）を長とし、SE3名、クラーク1名で業務を遂行しています。部屋は総合受付の奥、病歴室隣にあり、サーバー室もすぐ横にあります。重要情報を扱うことも多く、情報管理室やサーバー室へ入室するには、静脈認証をしないと部屋に入れないよう厳重なセキュリティ管理がされています。

私達の主な業務は、電子カルテシステムの保守運用業務です。保守運用業務とは、システムをいつでも正しく利用できるように、ハードウェアやソフトウェアを維持、管理、メンテナンスすることを言います。現在院内にはサーバー20台、パソコン約300台、この他にもプリンタ等の機器が多数付属します。このような大規模なシステムなので、毎日のように機器のトラブルや故障が発生しています。また、システムに関する修正依頼や、相談なども毎日持ち込まれます。

平成21年1月1日、カルテが紙で無くなった時から、電子カルテシステムは院内における情報管理の中心となりました。当院にとってシステムが停止するという事は、医療行為そのものが停止してしまいかねない重

要なリスクとなります。従ってシステムを安定稼働させるため管理を行うことは、とても大切な業務なのです。

これ以外にも仕事としては、「ホームページのメンテナンス」「グループウェアの維持管理」「病院経営のための情報収集」、「個人情報保護に関する業務」「地域連携システムの構築」など、院内で発生する様々な情報管理、提案、構築を行っています。私たちの業務は直接患者さんと接する業務ではありませんが、利用しやすい安定した情報の利用環境を提供することで、最終的に質の高い医療が提供できるという信念を持って、日々業務に取り組んでいます。





NEW FACE PROFILE

# 新人自己紹介



①氏名 ②所属(配属) ③抱負・自己PR等

## 医局



ヨシノ トモヤス  
 ①吉野友康  
 ②外科医長  
 ③高岡市出身で富山大学卒業後、18年で16回転勤し、大学病院以外で2度目の勤務になったのはここが初めてです。立派な病院で働けることに感謝しています。



イノウエ アキヲ  
 ①稲尾杏子  
 ②内科医員  
 ③高岡市出身です。一生懸命がんばりますのでよろしくおねがいいたします。



ナカニシ アキラ  
 ①中西章  
 ②整形外科医員  
 ③がんばりますので、よろしくおねがいいたします。



タニ マリコ  
 ①谷真理子  
 ②脳神経外科医員  
 ③脳神経外科の谷です。よろしくおねがいします。

## 看護部



ミヤモト ジュン  
 ①宮本潤  
 ②看護師(3階病棟)  
 ③済生会の一員として患者さんのために一生懸命頑張ります。皆さんよろしくおねがいします。



イシダ トモミ  
 ①石田友美  
 ②看護師(3階病棟)  
 ③分からない事ばかりでご迷惑をおかけすると思いますが、日々勉強の精神でがんばりたいです。



オシカワ ナツコ  
 ①押川夏子  
 ②助産師(5階病棟)  
 ③今年、助産師免許を取得しました。1日でも早く仕事が覚えられるよう一生懸命がんばってまいります。



イナミ リョウコ  
 ①井波良子  
 ②看護師(7階病棟)  
 ③患者さんから信頼される看護師になれる様、頑張りたいと思います。宜しくお願いします。



シマ イ  
 ①島井みさと  
 ②看護師(7階病棟)  
 ③9月から7階病棟勤務になった島井です。わからないことだらけですが、一生懸命頑張ります。よろしくおねがいします。

## 事務部



ヤマノシマ  
 ①八十島のどか  
 ②総務課主事  
 ③初めまして、八十島と申します。わからないことはありますが、明るく元気に頑張りたいと思います。よろしくおねがいします。



### 済生会富山病院報

発行者  
 富山県済生会富山病院  
 院長 三崎 拓郎

### 【編集委員会】

風間 泰蔵	加藤 智代	坂田 亜由美
佐々木 正詞	清水 快	下司 洋臣
関岡 綾子	西川 和良	藤本 勝宏
二谷 立介	堀田 裕子	南 沢
山本 富夫		

〒931-8533 富山市楠木33番地1 TEL(076)437-1111(代)FAX(076)437-1122  
 ホームページアドレス <http://www.saiseikai-toyama.jp/>  
 メールアドレス saiseikai-soumu@gaea.ocn.ne.jp